

### (3) 若年型糖尿病発症前 6 ヶ月間の先行感染について

(全国実態調査から)

大阪市大医学部小児科 一色 玄  
青野 繁雄

若年型糖尿病に対する全国実態調査票について先行感染の有無およびその内容につき集計検討を行った。男子 614 例中、先行感染を有するものは 129 例 (21.0%)、有しないもの 415 例 (67.6%)、不明 70 例 (11.4%) であった。女子では 928 例中それぞれ 181 例 (19.5%)、635 例 (68.4%)、112 例 (12.1%) であった。発症年齢別に見ると男女共、乳幼児期発症例で頻度が高くなっていた。先行感染を有する者における疾患別発症年齢は図に示す通りであった。男女共に感冒が先行感染として存在したとする回答が約 50% あり最も高率であった。流行性耳下腺炎を先行感染にもつ者は男女それぞれ 9.3%、7.7% であった。この値からは流行性耳下腺炎は特に緊密な関連を持つものとは考えがたい。

### (4) インスリン依存型小児糖尿病における食餌管理に関する研究

都立清瀬小児病院 土屋 裕  
長 秀男

小児糖尿病の食餌管理についてアンケート調査の集計結果を報告する。記載不備の調査用紙を除いた 1300 枚の集計である。

糖尿病患児の摂取カロリーは表 1 (男)、表 2 の如くである。全症例の平均値 (Calorie (1)) では思春期年齢以前では男女差はなく、従来から利用されている  $\{(\text{年齢} \times 100) + 1000\} \times 0.9$  の値とほぼ一致していた。思春期以後の摂取カロリー量は男 > 女となっている。S. D. は平均のほぼ 10% 程度に収まってはいるが、Max ~ Min の大きいようであった。理想的体型の症例 (Calorie (2):  $\frac{|\text{理想体重} - \text{体重}|}{\text{理想体重}} < 0.1$ ) のみを選び出してもこの傾向は変らなかった。体重当りのカロリー摂取量についてもほぼ同様であった (Calorie/kg (1) = 全例平均, Calorie/kg (2) = 理想的型の症例平均)。栄養素の配分は、極めて少数の症例を除いて、糖質 : 蛋白質 : 指質 = 50 : 20 : 30 近辺にあった。

自由な家庭生活を楽しんでいる 13 人の健常小児の栄養摂取状況 (図 1) は、糖尿病患児のそれ (図 1 中の点線部分) とほぼ一致していた (図 1 の 14 歳の児童 2 人は毎日の激しい運動のため摂取カロリ